



えんじゅ

春日市立春日小学校
校長室便り No.2
平成31年4月25日
文責：校長 福島

校長室の窓から見える文化



早いもので、4月も終わろうとしています。私が春日小学校に来て1か月になります。朝起きて、「早く学校に行きたいな」そう思える日々です。それは素敵な子ども達のおかげです。

昨日はこんなことがありました。

暑かったので窓を開けて校長室で仕事をしていました。すると後ろから「校長先生こんにちは」という元気な声が聞こえてきました。4年生の子ども達でした。「雨でぬれないようにこんな帽子を作りました。」ビニル袋をかぶって無邪気に話してくれました。サッカーをして遊んでいたようですが、ネット越しに集まって声をかけてくれたのです。5分ほどたわいのない話をしました。「それじゃあね。」という、「お仕事中ありがとうございました。」と言って遊びに戻って行きました。とてもいい気持ちになりました。

前号では自転車を止めて声をかけてくれた子どものことを書きましたが、このような事例が偶然の一例ではないことをこの1か月で確信しました。春日小には、「相手を意識する」「相手を大切にする」文化があり、子どもの力として育っています。

6年生に「春日小の自慢は何ですか。」と聞くと、「あいさつです。」と必ず答えます。春日っ子は、相手意識が高く、相手を大切にする具体的なスキルが育っています。

あいさつだけでなく、「子ども間の大きなトラブルが少ない」ということから実感します。人を傷つける言動が少ないと感じます。

1年生の教室の横を通ると「校長先生！」と声をかけてくれます。素敵な文化に浸ると、自然に素敵な行動ができるようになります。入学して間もない1年生の姿を見て、「相手を大切にする」文化は、地域全体でつくられていると思いました。大切にしたい文化です。